



こいでならしげ  
小出 樞重 《パリ・ソムムラールの宿》

こいでならしげ(1887-1931)  
大阪で生まれた。この作品は、小出樞重がわずか半年ほどのフランス滞在期間に制作した数少ない油彩の一つで、彼が宿泊していたパリ・ソムムラール街のホテルからの光景。  
この構図は、実際の風景に基づいてはいるものの、画家独自の感性でより魅力的な絵画空間に仕立て直されています。

はしもとへいはち(1897-1935)  
現在の伊勢市に生まれた。22歳のときに東京に行き、内閣印刷局に勤めた。次の年には彫刻家佐藤朝山(ちょうざん)の弟子になり、日本美術院という美術団体の開催する展覧会で活躍した。29歳のときには伊勢に戻り制作をおこなった。詳しく知りたい人は森本教頭先生に聞くこと。



橋本平八 《猫A》



このページのどっちの作品も、本物以上に本物。

みつ、みつかってしもた・・・。  
かまれるうう、ひっかかれるうう。

